



英語教員の資質向上 研修強化や外部人材登用を 府内各地の取り組みを支援 日本遺産認定に向け

—加治木府議の9月定例会質疑・質問より

加治木一彦府議は10月13日の大阪府議会教育常任委員会で小中高各段階での英語教育や日本遺産認定に向けた取り組みなどについて質疑・質問をしました。概要は以下の通りです。

英語教育は小学生向けに府が開発した学習教材「DREAM」の導入効果、中学校の英語教員の資質向上、高校のネイティブスピーカーの英語教員採用について聞きました。

「DREAM」を通し、子供たちが普段から積極的に英語を使うようになった、指導に不安を感じていた教員も自信をもって授業に取り組んでいる、とのこと。中学校の英語教員の資質向上には、ネイティブスピーカーが英語だけで研修をしているそうです。

高校の英語教員への外部人材の登用はすでに任期付きの「スーパーイングリッシュティーチャー（SET）」がありますが、終身雇用を前提にした採用を検討しているそうです。授業以外に課外活動などにもかかわってもらうことで、生徒が英語を使う機会を増やし、英語教育の一層の充実を目指す、としています。

日本遺産は文化庁が日本の伝統文化や文化財を通して地域の活性化を目指すために始めた認定制度です。26年度から始まり、これまでに全国で

37件が認定されましたが、大阪府には1件もありません。

担当課長より、大阪府と奈良県の関係10市町が調整して日本最古の官道「竹内街道・横大路」を、大阪府が「大坂の陣」をベースに府内10市とともに認定を目指すなど、府内で日本遺産に向けた取り組みが活発化している、この機運を生かし認定されるよう府として支援していく、との答弁がありました。

このほか、①大阪府立大学の第3期中期目標（案）②支援学校の施設整備状況③全国学力・学習状況調査とチャレンジテストなど計8項目について質疑・質問をしました。この日の様子は大阪府議会ホームページの動画配信でご覧いただけます。

大阪府議会ホームページ ▶



活動日誌より

6月 四条畷市

17

市立四条畷東小学校は大阪府教育委員会がアルファベットと英語の発音を対比して覚える「フォニックス」という学習法に基づいて作成した英語教材「DREAM」を使った授業をしています。平成32年度から小学校5、6年生で英語が正式な教科となり、3、4年生は「外国語活動」として英語に触れます。DREAMを使いこなし、児童に英語を話す楽しさを体験してほしいですね。



9月 北海道

5,6

府議会教育常任委員会の視察で訪れた星槎もみじ中学校（札幌市厚別区）は不登校だった児童・生徒を対象に特別な教育課程を組む、北海道で初の認定を受けた中学校です。狙いは生徒を「ポジティブなサイクル（好循環）」に乗せることです。習熟度別授業や体験学習、外国人教員との交流授業などを通し、それぞれの生徒が自信をつけています。



7月 北海道、青森県

21,22

国立病院機構八雲病院（北海道八雲町）は筋ジストロフィーなどの政策医療施設として道内外から入院、通院を受け入れています。筋ジストロフィーは年齢を重ねるにつれ、筋萎縮と筋力の低下が進む遺伝性筋疾患の総称です。同病院は医師や理学療法士、看護師、臨床工学技士のチーム医療でリハビリをしており、鼻マスクによる人工呼吸療法や車いすなどの支援技術の進歩のおかげで一定の治療効果が認められています。



2年連続で全国最下位になったこともある青森県の周産期の死亡率は県立中央病院が中核となり、劇的に改善しました。低体重で生まれた子どもたちは様々な後遺症が残ることもあるため、重症心身障がい児を街の小児科医院でデイケアをすれば母親の社会参加が促せる、との視点を教えていただきました。



9月 枚方市

16

府立枚方支援学校で開いた大阪府議会の出前授業で支援学校の建設や、学校備品の購入も税金の使い道として府議会が決められていることを通し、生徒たちの暮らしに深くかかわっていることとお話ししました。生徒たちは本物の投票記載台や投票箱を使い、模擬投票を体験しました。有権者として貴重な一票をしっかりと行使してほしいですね。

